

朝鮮大学校 VS 平成国際大学

10月6日(日)
11:30K.O.
朝鮮大G

4試合勝利のない朝鮮大と、3試合勝利のない平国大との対戦。勝点2差で、残留争いを考えても重要な一戦だ。浮上のきっかけをつかめるのはどちらか。

朝鮮大は前節、東農大に1-3で敗れた。「東農大さんは走ってくるチーム。うちとしても(その部分では)負けられない」(金載東監督)という気持ちがあったと話すが、しっかりと守備のブロックをつくりながら、球際の厳しい攻防でも互角以上の戦いで、好調の東農大に対して優勢にゲームを進めた。しかし、相手FWを抑えて攻撃の起点をつくらせなかったことは守備面では功を奏したが、そこから攻撃につなげるという従来からの課題は解消されておらず、決定機をつくれないうままスコアレスで折り返すと、後半は攻撃に出て高くなったDFラインの裏を取られるようになり3失点。「3失点した10分間がもったいない。集中力が切れてしまった」(金監督)。失点を最小限に抑えて勝負したいところ。

対する平国大は前節、関学大に1-4で敗れてしまった。2試合連続の4失点というのが気になる。第14節の4失点は内容的にそれほど差はなかったが、この日は西川誠太監督も「完敗」の一言に終始するほど、平国大らしさを見せられなかったゲームとなった。立ち

上がりの7分にDF須藤貴郁(4年)が素晴らしいFKを直接決めて先制したが、その後は関学大の高い位置からのプレッシャーに押されて前半終了間際に逆転を許すと、後半は相手のペースを覆すことができなかった。これまで、粘り強い試合運びを見せていた平国大だけに、内容的にもワンサイドゲームになってしまったことはショックだろう。切り替えて臨めるかどうか。

<出場停止>なし / 3回警告:小松崎雄太(平国大)
<前回の対戦>朝鮮大0-1平国大

朝鮮大	平国大
24. 鄭壯輝	16. 増田
17. 高志煌	34. 佐藤
4. 許亮	26. 小松崎
16. 韓勇俊	6. 本田
21. 康貴成	10. 堀越
28. 金成大	9. 星子
	30. 馬屋原
14. 朴利基	17. 坂本
22. 慎鏞紀	9. 高尚人
20. 金慎也	2. 須藤
15. 趙顕一	19. 堀越
	3. 深井

関東学院大学 VS 東京農業大学

10月6日(日)
13:50K.O.
朝鮮大G

連敗を止め、順位を一つ上げた関学大と、4連勝で上位2位を射程圏にとらえた東農大との注目の一戦。東農大に今季初勝利を献上した関学大は前回の雪辱なるか。

その関学大は前節、平国大を4-1で下した。連敗や大敗のあとなど、チームが下降線を辿ってしまいそうなポイントとなる試合はしっかりと勝利を収めている。平国大戦は、7分にFKで先制点を許し、決して良い立ち上がりではなかったが、「点を取られた後も我慢して、自分たちのやるべきサッカーができた」と石村大監督が話したように、高い位置からプレスをかけて主導権を奪い返し、前半のうちに逆転に成功した。久々のスタメン出場となったMF吉田和生(3年)が2アシストと活躍、2トップの2人がそれぞれ1得点1アシストと決定力を見せた。前回は完敗し、現在は勝点4差がついた東農大を倒し、再び昇格圏の追撃態勢に入りたい。

一方の東農大は前節、朝鮮大を3-1で破って4連勝を飾った。試合は点差ほど楽な内容ではなく、前半は朝鮮大の堅い守りに攻撃の起点を抑えられ、チャンスらしいチャンスをつくれずスコアレス。しかし、後半は徐々に相手の背後を突いてリズムをつかんだ。相手CKの後のカウンター攻撃から先制点を奪うと、そこから8分間

であっという間に3点リードを奪う集中攻撃を見せた。「前半は焦れずに集中力をもってできた。1点取れて、続けて2点目を取れたのが大きかった」(秋吉保浩監督)。復帰初年度で上位争いに加わり、「ちょっと浮ついたところがあり、改めて締め直した」(秋吉監督)という東農大。昇格争いを戦う序章として重要な一戦だ。

<出場停止>なし / 3回警告:土館賢人(関学大)、村山翔(東農大)
<前回の対戦>関学大0-3東農大

関学大	東農大
6. 木村	23. 中西
13. 吉田	18. 今野
4. 久保	3. 田村
11. 萱沼	10. 浜田
7. 太田	14. 石川
3. 土館	11. 井上
1. 守山	6. 中垣内
	30. 矢口
27. 原島	9. 富樫
8. 山本	5. 櫻岡
5. 山口	19. 岡庭
	27. 加藤

* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています *

JR 東日本カップ 2013 第 87 回 関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2013-NO.15
編集:五味亜矢子 発行:関東大学サッカー連盟 協力:関東大学サッカーサポーターズクラブ



上位陣がそろって勝点獲得!

JR 東日本カップ 2013 第 87 回 関東大学サッカーリーグ戦 2 部リーグは、第 14 節、ようやく上位陣がそろって勝星を挙げた。しかし、首位の東国大に勝点1差に迫った2位の駒大は法大と4-4で引き分け、東海大を4-0で下して4試合ぶりに白星を記録した東国大とはまた勝点差が開くことになった。それを追う東農大は朝鮮大を3-1で退け4連勝。東学大は拓大と1-1で3試合連続引き分け、平国大を4-1で破った関学大が5位に浮上した。下位グループでは、拓大が得失点差で順位を一つ上げた。

残り8試合となり、徐々に昇格・残留争いが激化してくる。前半戦から、首位・東国大、2位・駒大がそれぞれ勝点差を広げてリードしてきたが、ようやく3位の東農大が2位に1勝差まで迫ってき

得点ランキング	アシストランキング
10: 小牟田洋佑(駒大)	6: 佐伯 拓磨(東国大)
9: 伊東 純也(神大)	5: 田中 雄一(駒大)
8: 山本 大貴(駒大)	碓井 鉄平(駒大)
関谷 祐(青学大)	今野 順(東農大)
富樫 敬真(関学大)	長野 祐太(神大)
6: 全4名	4: 恵 龍太郎(青学大)
5: 全4名	

た。4位の青学大も連勝で追撃態勢に入っている。一方、下位グループは少ない勝点差でひしめき合っており、予断を許さない状況だ。今節も熱い戦いに期待したい。

JR 東日本カップ 2013 第 87 回 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第14節終了時)

順位	2部	東国大	駒大	東農大	青学大	関学大	東学大	神大	法大	平国大	拓大	朝鮮大	東海大	勝数	負数	分点	得点	失点	得失差	勝点
1	東国大		100	102	302	401	201	100	400	1013	301	201	300(没収)	10	2	2	30	15	15	32
2	駒大	001		302	401	200	401	200	304	200	102	401	9	3	2	35	19	16	29	
3	東農大	201	203		101	300	102	103	100	103	200	101	8	4	2	25	17	8	26	
4	青学大	203	104	101		000	100	201	401	000	100	102	7	4	3	22	16	6	24	
5	関学大	104	002	003	000		400	002	201	300	201	400	7	6	1	26	20	6	22	
6	東学大	102	204	201	001	004		302	001	301	201	200	6	5	3	19	20	-1	21	
7	神大	001	104	301	102	200	203		102	301	205	201	6	8	0	26	27	-1	18	
8	法大	004	002	001	104	102	100	201		101	102	001	5	7	2	24	26	-2	17	
9	平国大	101	403	301	000	003	103	103	101		302	100	4	6	4	19	29	-10	16	
10	拓大	103	002	002	001	102	102	502	201	203		100	4	8	2	18	22	-4	14	
11	朝鮮大	102	201	101	201	004	002	102	100	001	001		4	8	2	14	23	-9	14	
12	東海大	003(没収)	104	003(没収)	102	003(没収)	102	201	204	302	103	104	2	11	1	13	37	-24	7	

※ 東海大は後半戦終了時点で勝点-6となります

体育会学生のための
リクナビ就職エージェント

負けたら、立ち上がるだけだ。

部活と就活にEメールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」
<http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/>

RECRUIT

青山学院大学 vs 東海大学

10月5日(土)
11:30K.O.
東国大 G

2連勝で4位につける青学大と、2連敗でまだ後半戦の勝利がない東海大との対戦。東海大は、出場停止の主将の穴を埋めて初勝利を奪うことができるか。

青学大は前節、神大に2-1で勝利した。試合は苦しい内容で、2得点で逆点勝利を飾ったもののシュート数は3本。特に前半は1本も打たせてもらえないほど、防戦一方に追い込まれた。しかし、結果的にはこの前半を無失点で切り抜けたことが勝利につながったと言える。58分に先制点を許したものの、その直後に切った2枚のカードがムードを一変させた。途中出場したMF 関谷祐(3年)からMF 荒木大吾(2年)へ、2人がファーストプレーで同点弾を演出。神大のペースが落ちたこともあって攻撃の時間帯が長くなり、77分には逆転に成功した。「苦しい試合になった時どうやって打開するかという自信につながったが、攻守とも改善しなければいけない部分がある」(宮崎純一監督)。上位を見据え、厳しい試合をモノにするイメージはつかめたか。

対する東海大は、後半戦5試合を消化してまだ勝星がない。前節は首位の東国大と対戦し、0-4で敗れた。立ち上がりは、思い切りの良いパスワークで東国大陣内に攻め込んだが、33分にセットプレーから先制点を許

すと試合の流れは相手に傾いてしまった。「練習してきた形をやるというチャレンジは見えたが、1対1の場面が弱かった」と後藤太郎監督が話すように、攻撃の形をつくろうという意図は見えるが、決定的なシュートチャンスをつくれぬのが苦しい。なんとか先制点を奪う展開に持ち込みたい。

<出場停止> 小山真司(東海大) / 3回警告: 京谷季樹(青学大)

<前回の対戦> 青学大2-1 東海大

青学大	東海大
20. 服部	26. 小野
16. 恵	27. 北原
5. 京谷	9. 桑原
10. 木澤	5. 元田
12. 高橋	23. 木村
6. 高山	29. 内山
8. 後藤	24. 羽毛
14. 伊藤	25. 溝口
15. 水島	19. 永吉
11. 本城	13. 森田
3. 早田	2. 太田代

東京学芸大学 vs 法政大学

10月5日(土)
11:30K.O.
法大 G

3試合連続引き分けの東学大と、前節は駒大と引き分けた法大との対戦。後半戦初戦では法大が最少得点で勝っているが、現在の調子を見ても法大に分がある。なかなか勝ち切れない東学大は法大の攻撃をどう抑えるか。

その東学大は前節、拓大と1-1で引き分けた。前半は一進一退の攻防で、先制点を奪ったが同点弾を許して終了。後半に入ると拓大にボールポゼッションを許し、東学大はカウンター攻撃に終始した。それでも、ゴール前で決定的なシュートは許さず追加点は阻止。西園聡史監督が「ボールを持たれる状況になると思っていた。ボールサイドの守備と人に対する守備はしっかりできていた」と話したことは、今節にもつながるポイントだろう。守備をしっかりしたうえで、「支配率も上げていかんければいけない」(西園監督)。MF 茶島雄介(4年)も教育実習から戻ったことから、セットプレーのチャンスも増えるはず。昇格権争いに向けて正念場だ。

一方の法大は、2連勝で迎えた2位・駒大戦で4-4の引き分け。首位チームを破り、心身ともに絶好のコンディションで臨んだだけに、悔しい勝点1だろう。それでも、先制しながら立て続けの失点で逆転を許し、2点のビハインドを追い付き、再び許したリードを後半ロス

タイムに追い付くという試合展開を振り返れば、勝点1をもぎ取ったとも言えるだろう。そういった意味では好調さを継続している今、攻撃力を前面に押し出していきたい。「2点差を諦めずにできたのは評価するが、失点の仕方は簡単すぎた」(大石和孝監督)。不要な失点だけ注意して臨みたい。

<出場停止> なし / 3回警告: 田代雅也・西室隆規(法大)

<前回の対戦> 東学大0-1 法大

東学大	法大
25. 富澤	17. 森保
8. 佐々木	24. 白石
3. 成田	9. 岡
15. 菅	2. 宗近
12. 須賀	5. 岩渕
10. 茶島	16. 松田
4. 脇本	15. 高橋
11. 遠藤	1. 四宮
18. 五十嵐	6. 星
5. 廣木	27. 田代
	14. 松本
	30. 永戸

東京国際大学 vs 神奈川大学

10月5日(土)
13:50K.O.
東国大 G

4試合ぶりに勝利を挙げた東国大と、連勝が止まった神大との対戦。敗れたとはいえ内容は悪くない神大。昨季1部チームの意地として、2度は負けられない。

東国大は前節、東海大を4-0で破った。3試合勝利から見放されていただけに、立ち上がりはやや東海大の攻撃を受けてしまった感があったが、33分にセットプレーから先制すると自分たちのリズムを取り戻した。後半は8本のシュートを浴びせて3得点を追加。スタメン復帰したFW 加藤龍治(3年)が2得点1アシストと活躍した。しかし、前田秀樹監督は「内容は別として、何試合かムードが悪かったのを断ち切れてよかった。内容より勝つサッカーを心掛けた」と話し、球際の争いや前線からのプレスで「相手に良いボールを入れさせないこと」については課題を呈した。今節も神大の攻撃をまず未然に防ぐことが重要になる。終盤の本格的な昇格争いを見据えても、大事な試合となりそうだ。

対する神大は前節、青学大をシュート3本に抑えながら1-2で敗れた。試合内容を見れば前半から圧倒的に攻め込み、波状攻撃を仕掛けただけに、1得点に終わった攻撃が悔やまれる。また、58分に先制点を奪った直後の相手の選手交代への対応が遅れ、59分に同点弾を

許したことが、ペースを握り切れなかった要因となってしまった。しかし、全般的に見れば攻撃の質や内容は悪くないだけに、「結果は残念だが継続してやっていくことは変わらない。すぐ切り替えて次のゲームに向かっていく」と高峯弘樹監督。今節の相手は前半戦に今季初黒星を喫した東国大。上位グループに食らいついていくためにも、先制攻撃を仕掛けて結果につなげたい。

<出場停止> なし / 3回警告: 秋山真太郎(神大)

<前回の対戦> 東国大1-0 神大

東国大	神大
22. 新地	6. 秋山
17. 小玉	7. 長野
5. 川島	14. 芦野
9. 福島	5. 杉山
10. 若井	28. 武田
21. 今野	21. 池村
13. 佐伯	16. 前田
3. 阿部	10. 伊東
4. 加藤	8. 須郷
11. 高橋	4. 向山
2. 伊東	3. 高木

駒澤大学 vs 拓殖大学

10月5日(土)
13:50K.O.
法大 G

2位の駒大と10位の拓大との対戦。ロングボールを主体とする駒大と、パスワーク中心の拓大という対照的なチームだが、自分たちのサッカーを結果につなげるのはどちらか。

駒大は前節、好調の法大と対戦し、乱戦の末4-4の痛み分け。特に駒大は、先に2点のリードを奪い、さらに後半ロスタイムに同点弾を許すという試合展開だっただけに、勝点2を失ったと言ってもおかしくない内容であった。先制点はセットプレーから奪われたが、MF 小牧成亘(3年)の突破やFW 小牟田洋佑(3年)の高さを生かして31分、33分、38分と立て続けに得点を奪い一気に逆転。再び同点とされたあと、ついに84分に勝ち越したが、ロスタイムに追いつかれてしまった。今季2度目の4失点に秋田浩一監督は、「3-1になった後の失点は、いらない失点。ディフェンスに問題があった」。今節は失点をいかに減らせるかが鍵だ。

対する拓大は前節、東学大と1-1で引き分けた。これで4試合勝利から遠ざかっていることになる。この4試合、1得点以上を奪えていないことがその最も大きな要因。拓大の特徴である攻撃面は、試合全体を見れば支配率は高いなど深刻さは感じられないが、「クロスボー

ルやシュートの質がまだ低い」と玉井朗監督が話す通り決定力に難がある。東学大戦は、1-1で迎えた後半はほとんど主導権を握って攻め込んだが、得点を奪うに至らなかった。ピッチをコンパクトにした守備面は東学大のカウンターにも無難に対応した。攻撃は焦らず繰り返すしかないが、駒大との主導権争いに勝てるかどうか。

<出場停止> なし / 3回警告: 碓井鉄平・キム デセン(駒大)

<前回の対戦> 駒大2-0 拓大

駒大	拓大
3. 田中	2. 三浦
11. 小牧	15. 唐澤
4. 平尾	24. 末松
7. 碓井	4. 金子
22. 野村	20. 片
9. 小牟田	1. 大坪
20. 立石	
6. 若山	19. 菅能
5. 伊藤	11. 内野
23. 久永	31. 高橋
13. 大木	18. 大森
	26. 小針